

阿佐日まつり《あさひ まつり》

身長168cm、体重はヒミツ。

身長はやや高め、体重は軽め。

性別女性だが、男性器も併せ持つ、いわゆる、ふたなり。

王立豊御齋学園《おうりつ とよみき がくえん》五回生。

(東北日本王国では中等教育だけでなく高等教育も合同で義務化。JK二年生に相当)。

一人称は、『ぼく』。

あなたへの二人称は、名前呼び。

まつりとあなたを含んだ三人称は、『ぼくたち』。

この音声作品中では、あなたへの二人称は存在せず、基本的に、三人称の『ぼくたち』と呼ばれることになる。まつりとあなたは共感によって、ひとつに溶けあうべき魂である。

——外見

髪は短いおかっぱ。刈り上げナシの切り揃え。髪質はサラサラの直毛(矯正一切ナシ)。伸ばすと間違いなく見事な日本的美人になる。おかっぱを、おかっぱという固有性を維持したままで、どこまで短く切れば、ボーイッシュ属性に届くだろう？

まん丸の目の形、表情は豊か。というより、結構な百面相で、表情がコロコロと移ろう。

仮に、キャラクターの誇張表現として、獣の耳を生やすと犬の垂れ耳が生える。犬種はダックスフント、真面目な一方で活発、遊び好きな気質。

手足は長く、歩きまくる生活スタイルと趣味が高じて下半身がしっかりしている。

足腰の強そうな体つきだが、筋肉質というには筋量が足りない。

日常的に軽くでも肩がこる程度には胸が大きい。胸の大きさについて少しだけ屈折あり。

総じて、活動的な肉体。元気弾ける。

ふたなりとしては、いわゆる玉と竿の両方を備える。また女性器も有し、体内には子宮や卵巣など女性の生殖器も全て備えている。妊娠することもさせることも可能である。

——性格

可愛らしく、やや高めの声で整然、ハッキリと話す。少年っぽい口調。

喜怒哀楽のコントラストがクッキリ、気持ちがしっかりしている。

知性派。賢い系、文化祭系ボーイッシュ。

元気、活発、人懐こい、犬型か猫型かという断然、犬型気質。

慌てると、言わなくても良いことまで白状してしまうのはドジであるだけでなく、素直だからであろう。

—服飾

学校指定の制服は、セーラーとプリーツスカート。

色は、白基調で、セーラーの線とスカーフとスカートが朱色。

白と朱色の、いわゆる巫女さん配色が豊御齋学園制服のカラーリング。

セーラーの下に、白のインナーブラウスを着る方式。セーラーの裾からおへそが出ない。

夏のセーラー服は半袖。夏のインナーブラウスはノースリーブ。

下着は校則で、ある程度自由、まつりが選択するのはスポーツブラとボーイレッグ。

スパッツも履く。アディダスなどのスポーツ系メーカー。

足元はハイソックス。スパッツと色を合わせて黒か？

靴はスニーカー。歩きまくる。ハイカットのコンバース、かも知れない。

概して、すっきりしたまとまりを求め、自分自身が動きやすい格好を好む。

スカートよりもパンツルックの女子制服があったらいいのに、と思っている。

—セクシュアル『性』

性欲が、根拠も理由もなく、とても強い。

誰にも明かしたことはないが、男性器での自慰行為をよくする。

遊興費に乏しい学生なのでオナペットは自己の想像力一本鎗だが、道具として安価なオナホールを用いて、如何に長時間、自身の性的快感を励起し続けて自慰行為に耽溺するか、という方法の開発に極度に傾倒、独り遊び上手となる。

他者との性的接触に興味がある、だからこそ日常のささやかな欲情を握りしめて夜毎の自慰行為に励む、しかし自身の男性器が他者を傷つけるのではないかと怖れている。

相手が男性でも女性でもいいので無茶苦茶に犯したい、または犯されたい、と思う時があるが、自身の暴力衝動を恐れているので実行に移したことはない。

オナペットの対象は、男女両方である。どちらにも性的に興奮する。

幼少時から幼馴染みであるあなたと、性差を意識しない友情で結ばれていた為、自分の女性としての肉体に戸惑う時がある。あなたと同じ性別になれたらいいのにと思う時があるのは、男女の性行為を疎んじているからではなく、男性のあなたに男性器で接触をしたいと願望しているためだと、いつしか自覚するようになった。同時に、女性の肉体であなたと性的に接触する夢想もするようになった。女性器が熱を持つことに恐れ戸惑うが、それでも自分はそれを持つ者だと、自慰行為を繰り返すことで受け止めるに至った。

自分とは、男性でもあり女性でもある、という自認はあるが、女性器に触れることを回避している。今はちょっと勇気が出ないので保留している、というつもり。

暴力を恐れ、双方が合意の上で力の限り性行為に耽るような想像をよくする。相手をぐちゃぐちゃに責めて鳴かせる妄想に励む一方、ドロドロに愛されて喘ぐ妄想も好む。性行為で心身ともに他者と深く繋がりたいと望む、甘々のロマンチストかも知れない。

自身の想像上の性行為は他者に受け容れられないだろうと諦めている所もあり、日常生

活においては性的アピールを全く行わない。人畜無害の装いに努める。

性的な気配を消したことで周囲に安心を与えているのか、男にも女にもモテるが、笑ってごまかす。

強力な性的欲求を制御し、隠しているので、それが解放された時——合意を得た他者との性的接触に臨む時、とてつもなく激しい性交渉に発展する可能性が高い。

——ソーシャル『他者』

同い年の幼馴染みの男の子がひとりいる。即ち、あなたである。

物心ついた時にはいつも傍にいて、何をするのも一緒、以心伝心にして心身同一、自己と他者の境界が曖昧で、幼い頃のふたりとは、ふたつの肉体を持つひとつの生き物だった。

だが、いつしかまつりは密かに、あなたに性的な視線を注ぐようになっていった。

あなたの何気ない横顔に、恋慕と欲情を抱いた時、まつりの中であなたは一個の人間、初恋の相手になり、二者が自然に融け合っていた甘やかな幼少期が終わった。

あなたに恋をしたことをまつりは上手く受け止められず、しかし快美を求めて、あなたを一心に想って自慰行為を繰り返していた。

状況証拠は揃っている。あなたの横顔を盗み見る時の胸の甘さ、熱さ。その気持ちで自慰を高める心地よさ。あなたと性的に触れ合ってみたいという興味。しかし、どうしても、自分の恋心を受け止められなかった。だって、幼い頃のまつりとあなたはひとつの生き物だったから。

自身の心情の変化について自覚を得られないのであなたとの距離感が変わらなかった。

まつりはまだ、子どもの時間が続いているような気がしている。

自分がもう、発情した猛獣である自覚が足りない——そして、幼馴染みの男の子もまた、発情した猛獣であることも。

事故は起こるべくして起こり、この物語が始まった。

しかして希望は、まつりもあなたも、いつも結託して危険な遊びばかり進んで行い、何度となく死にかけても二人で必ず生還する、生粋のサバイバーであることだった。

——パーソナル『自己』

趣味は冒険。

作中何度も口にする、アブない遊びとはこのこと。

必ずあなたとふたりで冒険に出る。

幼少期には、学区外への自転車の遠乗りのような微笑ましい校則違反から、ゴムボートで自宅近所の用水路を出発して一級河川を川下り、事前に設定したポイントまで到達の後、乗り合いバスで自宅に帰還できるか、など大人が目を剥く大冒険を敢行したこともある。

また、花火を分解して火薬を取り出しての火遊びにしか見えない科学実験を経て、ホームセンターでアルミNウム粉末や肥料用のS酸Aンモンウムその他を購入して✕薬の自家

製造を計画したが、これはレジ打ちパートのおばちゃんの機転で自宅に通報されて未然に阻止された。

しかし、本命の✕薬材料である過塩素酸Kリウムなどを別ルート（学校と取引のある製薬会社に、●●書類を使用し、校内部活動の科学クラブ名義で購▲させる手口）で調達、まつりはあなたと密かに✕破計画を推進し、豊御斎学園二回生の時分に、まつりとあなたの命を狙って執拗に攻撃を繰り返してきた神を（性質悪化した旧い道??神だとまつりは正体を看破し、発破解体か外科手術のように適切に✕薬を使用して）、身にかかる火の粉を払うという明確な意思に基づき、✕殺したことがある。

運動競技があまり得意ではないが、活動的な性分で、動きやすい格好を好むために、誤解から運動部に勧誘されること多し。

運動能力はともかく、行動力はお化けの部類。なんとなれば《冒険者》の水準にある。

所属部活動は、民俗研究部。外見はともかく正真の文科系。学業成績優秀。

部活動の民俗研究部も冒険の延長。フィールドワーク調査を好む。

キャラクターコンセプトは、文化祭系ボーイッシュ娘。

体育会系でなくても、王子様でなくても、子犬のように屈託なく、性別というものがこの世界にあることを忘れて、ただただ明るく元気に楽しそうにじゃれついてくる……そんなボーイッシュ娘がいてもいいじゃないかっ！

《あなた》

身長170cm程度、体重軽め。

性別男性。

今作の聴取者の代理人——または、主人公。

王立豊御齋学園《おうりつ とよみき がくえん》五回生。

(東北日本王国では中等教育だけでなく高等教育も合同で義務化。DK二年生に相当)。

一人称は、『ぼく』。

まつりへの二人称は、名前呼び。

まつりとあなたを含んだ三人称は、『ぼくたち』。

この音声作品中では、まつりへの二人称は存在せず、基本的に、三人称の『ぼくたち』で呼ぶことになる。あなたとまつりは共感によって、ひとつに溶けあうべき魂である。

——外見

常時、両目が見える両目隠れな前髪。ぱつつん直毛切り揃えだと作者は嬉しい。

ミステリアスな雰囲気。

薄く微笑んでいることが多い。常に余裕を絶やさない。

端正な女顔……というよりも、髪型や雰囲気は異なるが、顔のパーツがまつりに何故か、とても良く似ている。兄弟、いや双子、或いは分身のような。まつりが男の子になったら、この顔になる、というべきか。

痩せ気味だが、肩幅や腰の形など、ちゃんと男の子の体つきをしている。肩骨とか胸骨とか硬そうだと作者は嬉しい。

——性格

どこかまつりに似ている。太陽に対する月、というべきか。

演者様はまつりと同一。

声質は中性的な少年で、人妻っぽい、優しげで包容力あり。まつりに似るも、やや低音。

アグレッシブなまつりの一歩後ろに立ち、決して逸れず、まつりを背後から守ってきた。

時々、悪魔のようなことを笑顔で宣(のたま)う、甘々男の子。

まつりを攻めるとして、ではSかという、そうとは限らない。まつりが攻めたい時は懐深くMに回って受け止める。MもこなせるS、という両面使いかもしれない。または、まつりと《あなた》の関係とは、SとMの関係に収まらないのかも知れない……共感性。絡みつくことで、受け止めることで、両者は共感でひとつになる。

——服飾

豊御齋学園、男子の夏制服。

スラックスと半袖ワイシャツに、ネクタイ。

スラックスの色は黒、ワイシャツは白、ネクタイは朱色。

ネクタイと第一ボタンは崩さず、しっかり絞めている。シャツの裾もスラックスにイン。

ワイシャツの下に、下着代わりのTシャツ（袖ナシ）。

パンツはボクサーブリーフ。

靴下は無難に黒。

靴はスニーカー。まつりの後ろを完全フォローして歩きまくる。少しだけワイルドに革スニーカー。Sピングル、ハイカットのカンガルーレザーかも知れない。

概して、見た目はキッチリして素行も良好だが、実際の所はまつりと同じくイリーガルな冒険者気質で、まともな不良生徒などとは比較にならないぐらいにアブない少年である。

——《あなた》について

この音声作品中では、《あなた》として、まつりと一緒に限界目指して絡み合う彼であるが、名前は勿論考えてある。が、今回は彼は《あなた》なので、秘めておくことにする。名前が明らかになると、《あなた》だと言い張るのも無理筋な気がするほど固有の人格が濃厚に漂う彼が、本当にネームドのキャラクターになってしまう。

彼の正体とは何者なのか。それも考えている。しかし秘めておくことにする。

彼とはミステリアスで、謎を持つ人物で、底知れない深い眼差しや、まつりが言う所のえっちな横顔といった、根拠の不確かな、しかし明らかな魅力を醸し出す男の子である。

何者なのか判らない、しかし可愛い、それが《あなた》である。《あなた》はこの音声作品を聴くことで、何者なのか判らない、しかし可愛い男の子になることが出来る。

何者であるかの最終的な決定をされない彼だからこそ、《あなた》足り得る。辛うじて。

いつか、名前が明らかになった彼は、ヒロイン（男の子だが）として、あなたの鼓膜をその謎めいた囁きで襲う。その日が来ることを作者は夢見ている。

世界観設定

——王立豊御齋学園《おうりつ とよみき がくえん》

王立豊御齋学園は、東北日本王国の（名目上とはいえ）今上の国王を理事に戴く王立学園。所在は東北日本王国の王都、奥州の天荘。

幕末期に建国した東北日本王国、初代国王の理想の実現の場として建学された。

国王が夢見たのは、窮鳥懐に入らば殺さず、慈悲による平和思想、即ちアジールの理念。

幕末の列島全土に及んだ動乱と、それに続く爆発的な近代化で行き場を失くしたヒトやモノ、カミヤオニを受け容れる国家を国王は夢見たが、常民の集まりである国家は時にそれを許さない。常民の安寧の統治のために、異分子は抹殺されてしまう。

国王は、自らの手が届く内で彼らを庇護する聖域の都、天荘を整備した。

豊御齋学園は、天荘に流離したものたち、特異な才能を持つ人間や、人外の異種を受け容れる学舎として始まり、建学百年をゆうに過ぎて、異種の絶対数が少なくなった現代でも、自由な校風にかつての理想の影をみることができる。

現代となっては、異種と人が交わることがそもそも少なく、異種の存在は忘れ去られている。語る者をなくした古の物語のように……初めから存在しないかのように。

だが、豊御齋学園には今も、異種が受け容れられ続けている。それを知る者は少ない。

——天荘《てんそう》

東北日本王国、国王の直轄地。

首都仙台に次ぐ、東北日本王国第二の都市。王都、と政令で定められている。

旧盛岡藩城下。古くからの異称を、不来方《コズカタ》という。

不来方の伝承にもある通り、かつて異種たる鬼と人が約定を交わした地。

北と東西の険しい山の狭間の平野にある不来方は、山に住まう異種と人間の交わる境界であった（不来方は北方アイヌの言語に語源があるとも言う）。

建国当時から、政府とは別の国王の支配権に守られていたため、国王の庇護を求めて流民、難民が流入。その中に、人間に似た異種も数多く含まれていた。

かつての江戸、徳川支配で異種は平らげられ、不来方は人間の街として治められていたが、国王が聖域として整備したことで再び、不来方は人間と異種が混じり合う境界となり、聖俗の混沌が入り混じる自由都市となった。その繁栄は、現在に続く。

——境界

人間が住む人界たる現世と、異種の棲む異界たる常世の狭間を、境界と呼ぶ。

境界は、人間と異種が同居し、入り混じる世界である。

もっとも、そこが人界と異界のどちらに近い境界であるか、という考え方も存在し、その場合、大都市として人間の繁栄に満ちる天荘は、人界寄りの境界である。

天荘から離れた奥州の山あいの土地などは、異界寄りの境界、となる所が多い。

——異種

人にあらずるもの、または人に近きもの。

モノ、カミ、オニ、などとも言われる。

人の世界——人界の外に棲む。

列島の場合は、瑞穂の実る水田の外之地。即ち、山野などが彼らの世界——異界である。

異界には共通概念として、険しい地理的条件で人界と隔たりがある。例えば険しい山、深い森、川の向こう、川上の水源、川下から海の遠く彼方……など。

奥羽山脈と北上山地に挟まれた天荘は、異界に隣接する境界の地理的条件を持つ。

彼らは、人と異なる生物としての異種であるのか、人の想像上の産物であるのかは判然としない。

彼らは本当にそこにいるのか、人はそれを説明できないが、彼らは時折、異界から境界に姿を現す。

彼らとは、この世に現れた不可解、この世の理の歪みのように人からは見えるのかも知れないが、まぎれもなく血と肉と魂があり、自我が備わっている。

彼らの実態——または、人が仮初めに観測した異種の姿は、古くからの伝承に数多く残されている。

また、奥州一帯は、異種の姿を伝承にとどめる『語部』たちの話芸が、伝統的に受け継がれてきた。

もっとも——異種は奥州にのみ存在するものではなく、列島の各地、人の世界の隣の異界、その境界に普遍的に存在していた。

文明規模の発達によって人界の権勢が高まると異界はより暗く、深くに潜り、強く力を蓄えるが、ふとした拍子に、条件の整った場所に表出する。

——東北日本王国

東北日本王国は、奥州、羽州、越州の三州と、北海道の一道の、道州制国家。

国家元首として国王を頂くが、国王の権力は憲法に制限される、いわゆる立憲君主制。王家は、大日本帝国天皇の血筋に連なるものの、天皇を自称せず、建国時に国王を称したのは、天皇の支配から脱したためとも、天皇の存在に配慮したためとも言われている。なお、建国当時から立憲君主制が貫かれており、元首の権力は国家に制限され続けていた。

主要都市には、各州都、道都、それらの衛星都市の他、政令に定められる首都仙台、軍都会津若松、王都天荘がある。

新政府と旧幕府が争った幕末、旧幕府勢力である奥羽越列藩同盟を日本列島の次期盟主と目していたプロイセン王国宰相ビスマルクは、日本列島内戦に干渉しないとする西欧諸国の局外中立を破棄し、戊辰戦争に軍事介入（これにより、西欧列強は次々と戊辰戦争に参戦、列島を舞台とした世界大戦の様相を呈し、戦乱は列島全土に拡大することとなった）。プロイセン王国と奥羽越列藩同盟の連合軍は、戊辰戦争の後半戦である北越、東北戦争で

新政府軍を東北の地から南へと押し返し、戦況を拮抗に持ち込んで国境線を画定。これにより東北日本王国が成立。大日本帝国、南日本合衆国が並列する、近代日本三国時代の始まりとなった。

東北日本王国は、建国より長らく、旧会津藩南端の国境線を挟んで大日本帝国と睨み合っていたが、西暦にして1945年、国王は大日本帝国天皇と関係を修復。天皇家を宗主と仰ぎ、天皇家に仕える——20世紀の二度に渡る欧州大戦以後、緊迫を増す東アジア情勢、わけても複数の大国と隣接する日本海沿岸、並びに北海道以北の列島北側防衛を担う、大日本帝国の同盟国となった。

現在の元号は、大日本帝国と同じく、平成。

——古志野さんと石下さん

まつりやあなたと同じクラスの女子生徒。服飾と化粧品に命を懸ける、みるからにギャル。

天荘の片隅に看板をあげている『古志野呉服店』と、『制服の石下』がそれぞれの実家。両家は天荘の小中学校制服販売のシェア争いを長年継続しており、家同士の関係は戦争状態にある……が、ふたりは幼少の頃からの親友同士であり、むしろ自分たちの両親のことを不寛容な老害と見下げ果てている。ふたりはいずれ、手に手を取って天荘を飛び出し、仙台か隣国の東京で服飾の自社ブランドを立ち上げ世界を驚嘆せしめるという熱い大望を握りしめているとかいないとか……それはきっと、達成されるが、とにかく、ギャルの描き方が良く判らないので本編にはおそらく登場しないが、今回のまつりにそうしたように、各話ヒロインたちにさりげなく重要な転機を与える運命にある。マックにたむろする女子高生はいつもうまいことを言うから似たようなものである。